

令和 7 年 11 月 21 日(金)

令和 7 年度第 3 回「横浜市地域公共交通会議」

次 第

報告

- ・ 金沢区東朝比奈・六浦地区における小型バス（おでかけシャトル）の本格運行開始について
- ・ 南区三春台・清水ヶ丘地区「おおたループバス」実証運行における運行計画の変更について
- ・ 本宿東部・川島町西地区小型バスの実証運行における運行計画の変更について
- ・ 保土ヶ谷区上菅田地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について
- ・ 港北区錦が丘・富士塚地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について
- ・ おでかけシャトルにおけるデータの取得について

令和7年度第3回「横浜市地域公共交通会議」委員名簿

職 名	氏 名
公募市民	小田部 明人
学識経験者 東京大学大学院 特任教授	中村 文彦
一般乗合旅客自動車運送事業者 (一般社団法人神奈川県バス協会 乗合部会長)	鬼頭 恒寛
一般乗用旅客自動車運送事業者 (神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長)	大野 慶太
一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事	関上 義明
神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長	白砂 照彦
神奈川県 交通運輸産業労働組合協議会 副議長	梅谷 英昭 (代理:石川 秀明)
国土交通省 関東運輸局 交通政策部 交通企画課長	市野 将英 (代理:坂本 裕介)
国土交通省 関東運輸局 神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	森下 文章
神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課長	最上 祐紀
(座長)横浜市都市整備局交通政策部 地域交通推進担当部長	石井 高幸

令和 7 年度第 3 回「横浜市地域公共交通会議」	
日 時	令和 7 年 11 月 21 日（金） 9 時 30 分から 11 時 00 分まで
場 所	横浜市開港記念会館 1 階 1 号室
開催形態	公開（傍聴：2 名）
議 題	報告 1_金沢区東朝比奈・六浦地区における小型バス（おでかけシャトル）の本格運行開始について 報告 2_南区三春台・清水ヶ丘地区「おおたループバス」実証運行における運行計画の変更について 報告 3_本宿東部・川島町西地区小型バスの実証運行における運行計画の変更について 報告 4_保土ヶ谷区上菅田地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について 報告 5_港北区錦が丘・富士塚地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について 報告 6_おでかけシャトルにおけるデータの取得について
議 事	（※本議事概要内では敬称略） 【報告 1】金沢区東朝比奈・六浦地区における小型バス（おでかけシャトル）の本格運行開始について ■公募市民 ご意見 ・本格運行の運賃は、実証運行時の運賃の倍となっているが、地域の反応を教えてください。また、周辺バス路線の運賃を教えてください。 ◇事務局 回答 ・10 月に自治会の地区長会で説明をしたところ、本市の補助金制度に関する質問の他、運賃増による利用者離れの懸念や、「デマンド型交通よりは安い」といった意見はあったが、最終的に自治会の総意として、今回の京浜急行バスが運行再開の判断をした機会を逃したくはないということで賛同をいただいた。 ◇事業者（京浜急行バス株式会社） 回答 ・近隣の路線バスの運賃は、金沢八景駅から発着する八 21 系統が初乗り運賃 200 円、三信センターまで 240 円、三信住宅まで 250 円となっている。 ■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見 ・運賃について現金支払いと IC 支払いで同額となっているが、タクシーの場合だと IC より現金のほうが高い料金設定にして IC 利用を促すという傾向にある。運賃に差を設けて IC に誘導するという考えはないか。 ◇事業者（京浜急行バス株式会社） 回答 ・一部路線では IC 運賃設定の取組も行っているが、本地区では、現段階で、現金と IC 同額の設定としている。将来的には IC 運賃の方が安くなるといった設定もあり得る。

【報告 2】南区三春台・清水ヶ丘地区「おおたループバス」実証運行における運行計画の変更について

■神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課長 ご意見

- ・収支率の計算において、敬老バス利用時の運賃収入は割引運賃 150 円、通常運賃 300 円のどちらで計算しているのか。

◇事務局 回答

- ・通常運賃 300 円で計算している。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・アンケート項目「利用しない理由」で「移動に困っていない」と回答した人が最も多くなっているのはどのように理解すればいいのか。

◇事務局 回答

- ・「移動に困っていない」と回答した方は現時点で地域交通の利用者となる可能性は低いと考える。アンケートは地域内の全戸を対象としているため、若い世代など、自分で移動できる方々は困っていないと回答したものと思われる。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・そうすると、今回の運行計画変更は選択肢の「移動に困っていない」以下の「運行ルートが合わない」や「運行曜日・時間帯が合わない」の回答に対応するものということか。

◇事務局 回答

- ・そのとおり。

【報告 3】本宿東部・川島町西地区小型バスの実証運行における運行計画の変更について

■公募市民 ご意見

- ・9月まで適用していた高齢者割引カードが10月から敬老バスに切り替わったことで利用者数が減ったとの説明があったが、高齢者割引の運賃を教えてほしい。また、アンケート項目「利用しない理由」で「移動に困っていない」と回答した具体的な理由を教えてほしい。今は自家用車があるから小型バスを使う必要がない人でも、もし自家用車が利用できなくなったら困ると思う。

◇事務局 回答

- ・高齢者割引の運賃は100円。移動に困っていない具体的な理由は、若い世代などで普段から徒歩や自家用車で移動している方は困っていないと回答したと思われる。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

- ・木曜の利用が少ない理由を教えてほしい。

◇事務局 回答

- ・地域と対話する中では、例えば月曜日は週明けで外出需要が増えることや、火曜日はスーパーの特売日などがあるが、木曜日はそういったものがないとの声があったため、それが主な理由ではないかと思われる。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

- ・恐らくこの地域ではアクティブユーザーが多くないと思われるが、利用者がたまたま木

曜に利用していない可能性もある。地域交通が走っていることで認知が広がることもあるため、利用者の少ない木曜日の運行をもう少し継続してもいいのではないかなと思う。

◇事務局 回答

- ・いただいたような考えもあると認識しているが、収支的な面もあるため、地域との対話を踏まえ、まずは月・水・金と曜日間隔を空けて試してみて、その実績を踏まえて改めて検討したい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・9月から10月で利用者数が減少しているが、高齢者割引の適用期間に実施したアンケート結果をもって運行計画を変更してしまっているのか。

◇事務局 回答

- ・今回は運行開始から10か月分の利用実績とアンケート結果を踏まえて運行計画を変更するが、今後の利用状況なども踏まえ、改めて運行計画の変更を検討していきたい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・高齢者割引が終了して利用しなくなった人について、移動を諦めてしまっているのか、別の移動手段を取っているかなどを追跡調査してほしい。

◇事務局 回答

- ・地域と連携して利用しなくなった人との対話の機会も設けていきたい。

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・利用実績としては1便と鶴ヶ峰駅（停留所）の利用者が多いが、これは朝に小型バスを利用して駅まで行き、そこから病院もしくは電車に乗って買い物などに行くという理解で良いか。

◇事務局 回答

- ・アンケートで主な目的地として駅周辺の病院を回答している方が多いため、そのとおりとされる。

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・一方で鶴ヶ峰病院（停留所）の利用がほとんどないが、どのように捉えているか。

◇事務局 回答

- ・停留所が鶴ヶ峰病院の入口から離れていることもあり、鶴ヶ峰病院に行く人にはほとんど利用されていないと思われる。

【報告4】保土ヶ谷区上菅田地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について

■公募市民 ご意見

- ・運行エリアが路線バスと一部重複しているが、バス事業者への説明と反応について教えてほしい。

◇事務局 回答

- ・バス協会及び周辺の交通事業者の説明して、このエリア内の運行であれば問題ないと回答いただいている。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・運行方法について、エリア内であればどこでも乗降可能で、運行時間帯であればいつでも乗車可能で、事前に予約を受け付け、予約が重複した場合はルート进行调整するということか。

◇事務局 回答

- ・エリア内で車両が通行できればどこでも乗降可能。予約は約1週間前までに電話で事前に受け付けるが、それ以降も空いていれば予約可能とすることを考えている。そのうえでルートを検討し、予約の重複があればルートの調整も行うことで検討を進めている。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・リクエストどおりの予約とならないこともあるのか。

◇事務局 回答

- ・場合によっては時間の調整をお願いすることもあり得る。デマンド型のボランティアバスを運行している他の地区でもそのような調整をしており、そういった情報を地域に提供しながらより良い運行方法を検討していきたい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・リクエストしても乗れない、時間変更されるなら乗らないという事例もある。また、タクシーとの棲み分けや、外出できてない人を助けるにはどうするのかなど様々な視点があるが、この乗り物の担う役割はどこなのか。いつでもどこでも乗車できるようにする必要はないので、引き続きその議論は地域と丁寧にしてほしい。
- ・エリアをこのような区画とした理由を教えてください。

◇事務局 回答

- ・運行エリアは上菅田地区連合町内会のエリアとしている。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・エリア外の人には利用できないのか。

◇事務局 回答

- ・現時点では周知の対象を含め連合町内会エリアの居住者による利用を想定している。

■公募市民 ご意見

- ・エリア外に居住している人でもエリア内からであれば乗車することは可能か。

◇事務局 回答

- ・現時点の地域の考え方はエリア内の居住者の利用を想定しているが、エリア外の人でもエリア内での利用を希望することもあり得るため、地域と調整していきたい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・エリア内の移動だけでなく、エリア外からエリア内に行く人もいるということも視野に入れてほしい。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

- ・事前予約制というのは、まちづくり協議会の人を受け付け、その人がボランティアの運転手に連絡するということか。

◇事務局 回答

・そのとおり。協議会の担当者にて予約を受け付けただうえで、ボランティアの運転手に連絡する。

【報告5】港北区錦が丘・富士塚地区におけるボランティアバス（許可又は登録を要しない運送）について

■公募市民 ご意見

・運行を週1日としている理由を教えてください。

◇コミバス市民の会 回答

・運行日を増やしてほしいという要望を多くいただいていたが、会としての力量との兼ね合いもあるため週1日としている。

■公募市民 ご意見

・市の支援を活用することで今後は増便もあり得るのか。

◇事務局 回答

・今後は市も連携して検討していきたい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

・車両について、運行日以外はどうしているのか教えてください。

◇コミバス市民の会 回答

・地域の方の車両をお借りして運行しているため、運行日以外は所有者が使用している。そのため、所有者の仕事の都合等により運行日に利用できないこともある。その時は会のメンバーの車を利用する。運行日を増やすのはその理由からも難しい。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

・車両調達については、タクシー会社から中古車の寄附を募るのもあり得ると思う。

◇事務局 回答

・車両購入を見据えて市の制度を活用したいという地域の意向もあるため、その様なご意見はありがたい。是非、相談させてほしい。

■神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課長 ご意見

・ボランティアによる運行はありがたい一方、持続可能性を考えると市の制度を活用してタクシー会社をお願いすることもあり得ると思うが、どのように考えているか。

◇事務局 回答

・一般的に、まずは、緑ナンバーの導入を検討し、アンケート結果で需要が見込めない、収支バランスが取れないといった場合にボランティアバスの検討に移行することが多い。市の制度としても基本は交通事業者による緑ナンバーの路線定期で検討し、需要に応じて展開していくスキームとなっている。

【報告6】おでかけシャトルにおけるデータの取得について

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

・この数年、データ取得・連携など進んでいるが、データ取得が目的化している傾向が非常に強い。効果検証で大事なものはデータを見やすい形で示して地域の打合せなどで共有し

て意見を出してもらうこと。実際はそこまで行きつかずデータ取得で手一杯となってしまう事例が多い。ぜひ地域との共有を具体的にチャレンジして関係者に状況を見てもらいながら議論して次につなげていくことに注力してほしい。そういう実績を積み上げることが大事。

◇事務局 回答

・市としても、取得したデータは地域や運行事業者と共有し、地域のニーズに応じた運行計画の検討や、収支改善に活かすことを考えている。

また、「みんなのおでかけ交通事業」全体の評価や改善にも役立てていく。